『VIEW next』高校版・2024年度「発問・課題設定をキーに見る　主体的・対話的で深い学び　授業実践」授業デザインシート

【教科・科目】	地理探究
【分野・単元】	現代世界の諸地域・ラテンアメリカ
【テーマ・作品】	ボリビア・ラパス在住のJICA職員からの現地レポート、相互交流
【設定時数】	全3時間のうちの1時間目
【単元の目標】	ボリビアの実情を手がかりに、ラテンアメリカの多様な自然、社会を理解する

時数	学習内容	自校の生徒の特性を踏まえた各時間における教育目標（身につけさせたい資質・能力）	左記の資質・能力の「学力の3要素」への分類	授業の大まかな流れ	授業における3つの視点の学びに対する指導内容・教師の配慮			育成を目指す資質・能力の評価方法
					主体的な学び	対話的な学び（教師による場づくりへの配慮）	深い学び（教師による思考の活性化・深化への配慮）	
1	・ボリビアについて、系統地理分野の既習事項を整理する。 ・教科書や資料集に書かれていない、リアルな情報を学ぶ。	・ラパス在住のJICA職員へのインタビューで、ボリビアの産業や社会について理解を深める。 ・既習事項とリアルな情報を基に、教材への理解を深めるだけでなく、地理的思考や技能を含めた質問を行ったり、感想を述べることができる。	主体性、思考力、多様性	・ボリビア在住のJICA職員とのZoomによる交流 ・授業担当者によるインタビュー ・生徒による質問や感想	JICA職員へのインタビューから得られる、ボリビアのリアルな現状について興味、関心を持つ。	真面目で素直な生徒たちだが、積極的に質問したりできるだろうか。	・JICA職員が、なぜボリビアでの任務を志したのかについて、インタビューから得られるキャリアガイダンス的な側面を、未来の自分形成、生き方の参考にする。	事前ワークシートなど
2	・グループワークを行う。 ・グループでボリビアの社会的な課題を考え、JICA職員への的確な質問事項を考える。	・グループワークにおいて、他者の意見を傾聴し、質問事項の作成について合意形成を図る。 ・日本がボリビアに行うことのできる国際支援の可能性や対策を、SDGsの観点とともに考察する。	思考力、協調性、表現力	・前時の確認･･･グループ内で行う。 ・ボリビアの社会的課題を考える。 ・新たな質問事項や感想をGoogle Formに書き込む。		グループ内で、ボリビアに関する知識、理解を確認しつつ、ボリビアの社会的課題について考察する。	グループワークで、質問事項を洗練させることができたか。他地域について、知的好奇心を高めることができたか。	グループワークでJICA職員への質問事項を共有。学習が深まっているものを取り上げる。
3	・ボリビアに関する知識、理解を起点として、ラテンアメリカの地勢、気候、歴史、産業経済、都市問題などを俯瞰する。 ・ブラジル、アルゼンチン、ウルグアイ、チリ、ペルーを取り上げる。	ラテンアメリカの地勢、気候、産業、都市問題などを俯瞰することによって、ボリビアの学習で得られた知識や理解が、ラテンアメリカ地誌を学ぶ際に汎用性のあるものだということを理解する。	知識、技能、思考力、多様性	・ブラジル、アルゼンチン、ウルグアイ、チリ、ペルーについて、ボリビアの学習で得た知識をふり返りながら、地誌学習を行う。		ペアワークを行い、ラテンアメリカ諸国の既習事項	ボリビアについて学ぶことで得た知識や理解について、汎用性をもってラテンアメリカ諸国の理解につなげ、ラテンアメリカ全体を俯瞰することができる。	ラテンアメリカ各国の系統地理的知識をワークシートにまとめ、提出。
4								
5								
6								